

という文には意味の手がかりになる漢字がありません。漢字という表意文字に慣れている日本人が英文を前にして最初につまずくのが、文章を見ただけでは意味が掴めないという点です。英文は頭の中で音読しないと意味が分かりません。つまり文字のつながりを一度音のつながりに変換して、その音から記憶をたどって意味を掴むのが英文を読むという作業です。このため発音できない単語は音読の妨げになります。英文を読むという作業は、頭の中で音読した英語を聴くという作業です。英語を聴く力があって始めて、英文を頭から順に理解できるようになります。つまり読む力は聴く力を土台としています。例えて言えば、目だけでなく耳も使っているようなものです。文字を視てその音を同時に聴くといい練習になるので、映画の字幕を使って発音と文字を同時に頭に入れます。漢字だけ拾えば意味が分かる日本語とは違い、英語は頭から順に音読して理解するのがコツです。

では英語らしい発音を真似するにはどうしたらいいでしょうか。これはカラオケを練習するのと同じです。歌を上手に歌うには、まずその歌を何度も繰り返して聴きます。次に同じ歌を聴きながら声を出して真似します。最後は伴奏だけで自分で歌います。発音の練習はこの歌の練習と同じで、英語らしい発音はひたすら真似することから生まれます。このとき

音を一度頭の中でカタカナに直してはいけません。日本語の発音は一度忘れて、英語の音を聴いた通りに発音するのが良い練習です。俳優のセリフを身振りや表情とともに覚えれば、モノマネの芸としても役に立ちます。言葉はモノマネから始まるので、モノマネがうまい人ほど発音も速く上達します。カラオケで英語の歌を歌うのも良い方法です。ひたすら聞こえた通りに真似します。俳優や歌手になったつもりで英語っぽい音を口から出してみましょう。数をこなすことで自然にフォニックスを覚えることができます。

こうして覚えた発音を試すにはアプリが使えます。アップルならSiriというアプリに英語で話しかけてみましょう。言語設定を英語にして俳優のセリフを英語で話します。もし意図した英語として判定されれば発音は合格です。機械の判定は厳しいので、この判定に合格すればあなたの発音は十分道具として使えます。グーグルのTranslateやVoice Searchでもかまいません。Google Translateは翻訳元と翻訳先の二つの言語を指定するので、英語と英語を選びます。つまり発音に関係なく英語として判定してもらいます。もし自分がネイティブ並みの発音だという自信がある人は、日本語と英語の言語を選ぶと判定がもっと厳しくなります。英語を話しているつもりでも機械には日本語に聞こえる場合があるので、いかに